

生涯学習社会において博物館が行う学習支援について その1 : 小中学校における「総合的な学習の時間」への支援

著者	三野 紀雄
雑誌名	生涯学習研究と実践 : 北海道浅井学園大学生涯学習研究所研究紀要
巻	3
ページ	25-40
発行年	2002-09-30
URL	http://id.nii.ac.jp/1136/00002394/

生涯学習社会において博物館が行う学習支援について その1

—小中学校における「総合的な学習の時間」への支援—

The Effect of a Museum in a Lifelong Learning System—Part 1:

The Effect of a Museum on Elementary Education

三 野 紀 雄

MINO, Norio

は じ め に

博物館では、生涯学習社会と呼ばれる現在において、博物館を訪れ利用する人びとに知的欲求への刺激や心の充足感を与えることができるように、展示などさまざまな学習支援の活動を行っている。その一つに、学校（教師）や児童生徒に対する学習支援がある。この学校への学習支援は博物館が行う活動の大きな柱の一つとなっている。

しかし、博・学連携あるいは博・学融合などの必要性が叫ばれるようになって久しいにもかかわらず、博物館運営の上で、今なお未解決なあるいは充分には果たし得ていない大きな課題として残されている。ここでは新しい「博・学共働」¹⁾の視点に立って博・学連携の意味と、特に小中学校の「総合的な学習の時間」への支援状況を把握しながら、望ましい博物館と学校教育との関係について考え、また若干の提言を試みることにしたい。

この調査研究の実施にあたっては平成13年度北海道浅井学園大学特別研究費（特殊研究費）を使用した。また、アンケート調査と聴き取りをとおして、道内の90館を超える博物館施設と180校に及ぶ小中学校から貴重な実践記録やご意見をいただいた。協力していただいた各学校及び博物館施設の関係者の皆様に深く感謝申し上げる。なお、アンケート調査の集計結果は、参考にしていただくために、「総合的な学習の時間」の本格実施に先立って、それら協力いただいた小中学校と博物館施設に送付している。

I 博物館が行う学習支援

博物館が行う事業あるいはそれがもつ機能には①資料の収集と保管、②調査・研究、③展示、④教育普及の四つがあり、いずれの博物館施設においても当然行うべき業務、あるいはもつべき機能とされ、配置されている学芸員がその任にあたっている。この四つの業務あるいは機能は、それぞれ博物館施設が行う学習支援活動に関わりをもち、学習支援を支える基盤あるいは学習支援そのものでもある。本論に入る前にまず、この四つの機能と博物館が行う学習支

援との関係について以下にその概略について触れておきたい。

1. 博物館施設が収集・保管する資料

生涯学習の支援において博物館施設と他の生涯学習施設との際だった差異は、博物館の事業全般が資料（歴史資料や美術作品など）を基礎にして行われているところにある。収集・保管された資料は、博物館施設の中で展示や調査研究の対象となるばかりでなく、体験学習や講座などの教育普及活動にも活用されている。また、博物館が行うアウトリーチ活動のほか、博物館資料は他の博物館施設や学校などにも貸し出されて、博物館外でも展示やさまざまな教育活動に活用される。さらに、資料は大学や研究機関に所属する外部の研究者だけではなく、まだそれほど事例は多くはないが、一般市民が行う生涯学習の一環としての調査・研究活動の対象にもなっている。

2. 博物館資料についての調査・研究

博物館施設では、収集・保管している資料や歴史的なまた自然的な事象についての調査・研究活動が行われている。そこでの研究成果は、博物館情報として蓄積され、また出版活動や展示活動などの教育普及活動などをつうじて館外へ発信させる。したがって、資料のコレクションとあわせて調査・研究活動は博物館施設が行う学習支援活動の基盤をなすもので、その成果の蓄積や学術・文化的な水準は博物館施設の社会的な価値を計る目安にもなっている。

3. 展示

博物館施設が行う展示活動にはさまざまある。その博物館の基本的な理念やテーマを表わし館活動の中核でもある常設展示、それぞれの館が自主制作する特別展あるいはテーマ展などとよばれる短期間に限って開催される企画展示、また他の博物館施設などが企画・制作した巡回展などである。展示は知識の宝庫ともいえ、そこには生涯学習に役立つ情報が詰め込まれている。

展示には、体験学習室あるいはディスカバリールームなどともよばれる資料に触ったりまた操作しながら生活文化や芸術、さらには自然の仕組みなどを五感をとおして体験的に考えまた学ぶことのできる施設も含まれる。企画展示やこのような体験学習施設は講座・講演会などの教育普及事業とあわせて常設展示での学習を補完するもので、利用者の多様なニーズに応えるように配慮される。特に、体験学習施設は児童生徒の常設展示での学習を手助けするもので、展示がもつ意味を楽しく分かりやすく学ぶことができる。また、体験学習施設は常設展示での学習の導入的な役割も果たしている。そのことから近年開館した博物館施設では、常設展示の中に体験学習の機能をもった展示を挿入する試みもみられる²⁾。この試みは、児童生徒ばかりでなく視覚が不自由な方の展示理解を助ける意味でも有効と考えられている。

4. 講座・講演会など教育普及事業

博物館施設が行う教育普及事業には、利用者の多岐多様なニーズに応えるために、講座・講演会・観察会・見学会などの催事のほか、ガイドブック・展示や資料の解説書・調査や研究の報告書・資料目録などの出版、催事・資料・研究などについての情報を印刷物やインターネット

トなどで提供する情報サービスなどがある。この教育普及事業のうち催事や出版物は、児童生徒・学生・一般など、それぞれの対象にあわせたプログラムや内容になっている。

しかし、これらは博物館から利用者への情報提供が一方向的になりがちで、利用者と博物館側（学芸員）が共に学習し知識を高めるためには、双方向的な情報の交換が必要である。そのために、学芸員や展示解説員などと呼ばれる職員が展示室で行う展示や資料についての解説、また研究室や資料室での資料を目の前に置いての解説等が有効な学習方法とされている³⁾。さらに、館内に図書室を設置して、一般利用者の便に供することも大切とされ、北海道内でも幾つかの博物館や展示施設にはその設置の例が見られる⁴⁾。

Ⅱ 学校教育への支援の背景とその内容

1. 学校教育支援の背景

博物館施設の学校教育への支援の現状をみる前に、博物館施設及び学校の双方がおかれている社会的な背景について触れておきたい。

1) 各学校がおかれている背景

各学校での教育課程の基準となるものが学習指導要領である。学習指導要領はこれまでに6回改訂されている。昭和62年12月24日に中央教育審議会から文部大臣へ答申された「幼稚園、小学校、中学校及び高等学校の教育課程の基準の改善について」には、基準を改善するにあたってのねらいとして、次の四つのポイントが示されている；ポイントは①豊かな心をもち、たくましく生きる人間を育てる学校、②自ら学ぶ意欲と社会の変化に主体的に対応できる能力の育成を重視した学校、③国民として必要とされる基礎的・基本的な内容を重視して、個性を生かす教育の充実を図る学校、④国際理解を深め、我が国の文化と伝統を尊重する態度の育成を重視して、世界の中の日本人を育てる学校を構築すること、である。その答申を受けて、(旧)学習指導要領の特に社会科（小学校低学年では生活科）のねらいは、各学校とも従前どおり公民的資質を目指すこと、加えて社会の変化に対応して教育内容の精選と理解・態度・能力の育成・向上をはかることとされ、地域学習を重視し、地域資源を選択し教材化すること、さらには五感を通して学ぶ体験的な学習を取り入れることが重要と指摘されている。

それ故、特に生活科及び社会科においては、地域を大切にする態度を育み、地域社会についての基礎的理解を身につけさせるため、さらには地域社会の一員としての自覚を育てるためにさまざまな地域資源の教材化や体験的な学習を取り入れることが重要で、次のとおり、とりわけ博物館施設の活用が有効であると考えられた。

(旧)学習指導要領の総則には、教育課程（旧教育課程）の実施にあたって「各教科の指導にあたっては、体験的な活動を重視するとともに、児童生徒の興味や関心を生かし、自主的な学習が即されるように工夫すること」が配慮事項となっている。さらに、小学校社会科の指導要領の「第3 指導計画の作成と各学年にわたる内容の取り扱い」「1」に「指導計画の作成に

あたっては、博物館や郷土館の活用を図ると共に、身近な地域及び国土の遺跡や文化財などの観察や調査を行い、それに基づく表現活動が行われるよう配慮すること」と博物館施設の活用を促進することが明示されている。同様に、中学校社会科の歴史分野、高等学校の地理歴史の教科においても博物館施設の活用の有効性が位置づけられている。

それでは次に、学校5日制が完全実施されるにあたって改訂された（新）学習指導要領及び（新）教育課程をみると、これまでと同様に人間としての「生きる力」を育み育てることを学習指導上の目標とされている。また、教科としての社会科の性格は基本的には変わっていない。しかし、これまでとの大きな違いは、「生きる力」を育み育てる場の一つとして、「課題」を学び「学び方」を学ぶ、「総合的な学習の時間」を設定したところにある。さらに、各学校が教育課程の編成及び指導計画の策定にあたって自由裁量の大幅な拡大を認めている。

中央教育審議会第一次答申（平成8年7月）及び教育課程審議会答申（平成10年7月）を受けて改訂された（新）教育指導要領（平成10年12月告示）は、「総合的な学習の時間」のねらいや配慮事項を総則に位置づけ、そのねらいを次のように掲げている；①自ら課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力を育てること、②学び方や考え方を身につけ、問題の解決や探求活動に主体的に、創造的に取り組む態度を育て、自己の生き方を考えることができるようにすること。その上で、「総合的な学習の時間」を創設するにあたって教育課程審議会答申（平成10年7月）は、国際化などの社会の変化に主体的に対応できる「生きる力」を育成するために、地域資源を活用し、学校や地域の実態に応じて創意工夫し、教科の枠を越えた横断的・総合的な学習が展開できるように時間や場などを確保することを求めている。各学校には、教科とは異なり時間枠のみを国が定め、内容や活動については各学校の裁量とし、創意工夫を時間の面から保証しているわけである。

ところで、この「総合的な学習の時間」ではどのような学習活動が想定されるだろうか。学習指導要領の総則には、学習活動を次のように例示している；①国際理解、情報、環境、福祉、健康などの横断的・総合的な課題、②児童生徒の興味・関心に基づく課題、③地域や学校の特色に応じた課題。したがって、設定される環境、国際理解、歴史や文化を含めた地域理解を深めるための学習活動の展開においては、博物館施設の学校教育への関わりが求められ、それによって今後より一層の学校と博物館施設との共働的な関係づくりが必要になってくるわけである。

また、平成4年4月からの学校5日制の試行にあたって、地域の教育的活力を活用するために公民館、図書館、博物館などの社会教育施設や文化施設などを活用することの重要性が、文部省初等中等教育長・生涯学習局長通知（平成3年3月23日文初小第296号）として示されている。通知の「2 家庭や地域社会における幼児児童生徒の体験等の充実」(1)のア(ア)において、「休日の拡大等に対応した青少年の学校外活動の充実について（審議のまとめ）」（平成4年2月26日、青少年の学校外活動に関する調査研究者会議）を参考にして、教育委員会は他機関との幅広い連携を基にして幼児児童生徒が遊び・文化活動・自然とふれあう活動など多様な活

動に参加できる場を確保するとともに、その機会の充実を図ることが必要であると指摘し、その実施を求めている。

以上のように、これからの時代を生きる幼児・児童・生徒の望ましい人間形成を図るために、教育課程の編成あるいは学校経営、さらには家庭や地域社会における教育活動を支援する上で、博物館施設もその役割の一端を果たすことが重要であり、またそのことが期待されているわけである。特に、(新)教育課程に設けられた「総合的な学習の時間」においては、地域理解や国際理解などさまざまな学習課題を解決する上で、博物館・美術館等の施設がもつ資源を活用し、それらの施設と各学校とが共働的な連携を図ることが益々期待されている。

2) 博物館施設がおかれている背景

第15期中央教育審議会答申（第一次答申）「第3章 これからの地域社会における教育の在り方」の「社会教育・文化施設の整備充実と新たな事業展開」の中で、その運営等にかかわって次のように指摘されている；「公民館、図書館、博物館、青少年教育施設、美術館、様々な社会教育・文化施設の整備が各地で進められてきている。もちろん、いまだ十分であるとは言えず、今後もさらに積極的に整備に取り組む必要があるが、その際、特に利用者の視点に立った整備・充実の重要性を指摘しておきたい。これらの施設が、子供たちのそれぞれの興味や関心に応じた主体的な学習の場ととして、子供達にとって気軽に利用できることが大切である。このことは、施設の運営等についても同様で、子供達のニーズを踏まえ、子供たちが行うことを楽しみにするような施設運営や参加型・体験型の事業を行っていくことが重要である。」と。

この中央教育審議会答申にもあるように、北海道の各自治体においても、未整備の自治体がまだ少数みられるが、多くの自治体では「場」としての博物館・美術館など社会教育・文化施設の整備充実を精力的に進めているように思われる。しかしそれに反して、運営面では、学校教育での学習に資する、また子供達のニーズを踏まえ、子供たちが楽しみながら参加できる参加型・体験型の事業の展開といった面では、はたして充分に行われているかどうかについては疑問が残る。すなわち、ハードの整備充実が進んではいるが、ソフトの整備充実はまだまだ不十分と言わざるを得ないのではなかろうか。

もちろん、学校教育への支援、また博物館クラブや参加・体験型の施設などを設けて子供たちの参加型・体験型事業を活発に行っている博物館施設もみられるが、大方の博物館施設では予算や人員の面から積極的には行い得ない状況にあるように思われる。

第1表は児童生徒への学習支援活動に対する博物館施設の感心の度合いを示す調査結果である。この調査は博物館での学習の基本資料である児童生徒用「リーフレット」・「展示解説書」、あるいは教師用の「学習指導の手引き」等が整備されているか否かについて、北海道開拓記念館事業部普及課が平成12年度に、全国の主要な博物館施設に対し行ったもので、以下に北海道開拓記念館の了解を得て集計結果の一部を掲載することにしたい⁵⁾。

第1表 児童生徒用「学習資料」及び教師用「指導の手引き」等の作成状況

調査者：北海道開拓記念館

調査年月：平成12年4月～7月

調査対象：全国主な博物館施設100館

回答館数：70館

児童・生徒用リーフレット	児童・生徒用リーフレット（学年別）	児童生徒用解説シート及びワークシート	展示解説書あるいは学習のしおり	教師用の指導の手引きあるいは講座開催
23館 (32.9%)	3館 (4.3%)	20館 (28.6%)	11館 (15.7%)	5館 (7.1%)

第1表で明らかとなり、多くの博物館施設においては、児童生徒用の「リーフレット」「ワークシート」「展示解説書」は未整備で、教師用の「学習指導の手引き」にいたっては整備している博物館施設は極めて少数である。

博物館施設が今日抱えている大きな課題の一つとして、特に利用者の減少が挙げられる。そのための対策として各博物館施設は、常設展示の改訂、集客を見込める特別展示の開催、感心度合いの高い今日的な課題をテーマにした講座や講演会の開催などに努めてはいるが、利用者の減少をくい止める有効な方法にはなっていないようである。これには様々な要因が考えられるが、その一つに我が国では、子供も大人も含めて、博物館・美術館を訪れるのは特別な行為であって、まだ「日常生活の一部」になりきっていないことが挙げられる。欧米では、いつも館内溢れんばかりの市民が家族づれで訪れ、博物館・美術館を楽しんでいる光景が随所でみられる。

日本の博物館利用者減をくい止めるためには、幼児あるいは児童生徒の時期に、特に学校教育において、博物館は「楽しく遊びまた学ぶことができる場」、また「学習に役立つ場」であると知らせること、さらには「博物館の利用の仕方」を身につけさせることが何より大切なのではなからうか。そのことが成人になってからの博物館利用へと結びつくのではなからうか。それ故、博物館もそのことを十分に理解して、学校教育に対し積極的に支援することが必要となるわけである。そして、中・長期的には、そのことが入館者増対策の一つになり得るものと思われる。このような意味から、特に博物館関係者に対して、とりわけ“「総合的な学習の時間」への適切な対応”が博物館を活性化し、博物館を生き返らせることのできる方策の一つであると強調したい。

2. 博物館施設が行う学校教育支援の内容

さて、それでは博物館が行う学校教育への支援にはどのような内容が考えられるだろうか。その内容のいくつかを例示すると、まず教師に対しては①児童生徒の見学・学習に先立って「館内の展示などで児童生徒に何を学ばせるか」といった指導内容や教材研究への助言、②「展示解説書」「指導の手引き」「資料目録」などの提供、③通常の授業や研究授業への助言や博物館資料の提供・貸出し、④「博物館を如何に利用したらよいか」といった講座・講習会の開

講、次に児童生徒に対しては①児童生徒用の「リーフレット」「展示解説書」「学習のしおり」「ワークシート」「展示や資料についての解説シート」などの提供、②展示見学に先立ってのオリエンテーションやミニ講座・講演会の実施、③展示室内での展示解説やグループ学習へのポイント解説、④学芸員が行う展示室内での博物館授業、⑤体験学習への指導、⑥児童生徒のため企画展示の開催、⑦アウトリーチ活動としての学校内でのミニ展示・講座・体験学習などの開催、さらには教師や児童生徒に対する①「総合的な学習の時間」への様々な助言や協力などである。

これらの支援のうち、いくつかを実施している博物館施設、あるいはそのほとんどを実施している博物館施設⁶⁾などさまざま見られる。学校教育への博物館側の支援体制がまだ充分には整ってはいないにしても、大方の博物館は、学校教育に対して多少なりともこれまでも協力しているし、また今後も可能な限り積極的に協力したいと考えていることは確かである。

Ⅲ 博物館施設が行う小中学校への支援状況と小中学校の博物館施設利用の状況

平成14年4月から、公立の幼稚園から高等学校までの各学校で学校5日制が完全実施されている。またそれに伴って、小・中学校、及び高等学校では「総合的な学習の時間」が本格実施されている。それに先だって、平成13年6月から11月にかけて北海道内の博物館施設及び小中学校に対し、博物館施設の学校教育への支援の状況と各学校の博物館利用の状況について以下のとおりアンケート調査を行った。調査－1は博物館施設に対して、また調査－2は各学校に対して行った調査結果である。ここにはアンケートの調査結果のみを掲げ、この調査結果から読みとれる試行状況と問題点、さらに今後の課題については、次項のⅣで述べることにしたい。

<調査－1>

学校教育への博物館の協力状況に関するアンケート調査 (特に、「総合的な学習の時間」への協力について)

調 査 者：北海道浅井学園大学生涯学習システム学部
芸術メディア学科（学芸員課程）

調 査 期 間：平成13年6月上旬～7月上旬

調査施設数：道内の歴史系・自然系博物館136館

回答施設数：92館

回 収 率：67.6%

(比率の基数は全て92館)

I 学校教育への協力について

1. 普段の学校教育に対する協力について

第2表

館数 (%)

積極的に協力している	47	54.0
まあまあ協力している	38	41.3
協力していない	0	0
未回答	6	6.5

2. 協力の内容について（複数回答）

第3表

館数 (%)

児童生徒の入館料が無料	57	62.0
児童生徒用パンフレット等の提供	28	30.4
教師用解説書・見学の手引き等の提供	15	16.3
（教師へ）下見・下調べへの助言	52	56.5
教材（学習のしおりなど）づくりへの助言	18	19.6
児童生徒へのオリエンテーション	28	30.4
児童生徒への展示解説	72	78.3
児童生徒へのグループ学習への解説	40	43.5
館内での講座・体験学習等の実施	39	42.3
教材（副読本等）づくりへの助言	9	9.8
学校内で行う事業や行事への助言	45	48.9
資料の貸し出し	53	57.8
情報の提供	44	47.8
「総合的な学習の時間」への協力	49	53.3
その他	4	

その他：サケの採卵実習の受け入れ、夏休みの自由研究の相談、作品審査会への出席・作品発表会の開催、博物館利用に関する冊子「博物館と学校教育」を各校に配布、自主的なクラブや観察会等への講師の派遣

3. 1年間に協力した学校数

第4表

館数 (%)

0校	1	1.1
1校 ～ 9校	47	51.1
10校 ～ 29校	17	18.5
30校 ～ 49校	1	1.1
50校 ～ 99校	5	5.4
100校 以上	4	4.3
無回答（館での未集計を含む）	17	18.5

4. 学校への協力にあたっての問題点や留意している点

－問題点－

- ・協力を望んでいるテーマに具体性がなく、また目的が明確でない
- ・事前の打ち合わせに充分時間がとれない（学・博双方の事情で）
- ・教師間の連携が取れていないようだ
- ・利用時期が集中する
- ・館内での学習時間が短い
- ・内容がよく理解されていない段階での、子供達からの問い合わせが多い
- ・館側に要望に応えるだけの十分な人員がいない
- ・館側に児童生徒にとって分かりやすい資料がまだ十分に備えられていない
- ・身近に野外学習で利用しやすいフィールドが少ない
- ・学芸員の専門性からテーマによっては対応できない（他地域の専門家に要請）

－留意点－

- ・あくまでも教師への協力であり、博物館へ企画等を任せきりにならないように
- ・子供達の将来に繋がるような学習になるように
- ・子供達が子供達の興味・感心に基づいて学習できるように
- ・地域的な素材を活すように
- ・子供達の疑問に対して直ぐには答えを与えない（安易な資料配付はしない）
- ・単なる施設見学に終わらないように
- ・よりよい学習のために博・学双方の問題点を洗い出している

Ⅱ 小・中学校での「総合的な学習の時間」への協力

1. 試行されている小・中学校での「総合的な学習の時間」に対して協力していますか

第5表	館数 (%)	
積極的に協力している	44	47.8
消極的ではあるが協力している	32	34.8
協力していない(要望がないを含む)	8	8.7
無回答	9	9.8

2. 「総合的な学習の時間」に関しての学校側の要望内容(複数回答)

第6表	館数 (%)	
(教師へ)テーマ・内容等についての助言	25	27.2
(児童生徒へ)展示室・収蔵庫内での解説	54	58.7
(児童生徒へ)学校内での講義や指導	32	34.8
博物館資料や物品等の貸出し	11	12.0
その他	6	6.5

その他：教師に対する「総合的な学習の時間」についての研修あるいは講演会の開催、社会科見学での見方、聞き方、調べ方

3. 1年間に博物館が「総合的な学習の時間」に対して協力した学校数

第7表	館数 (%)	
0	1	1.1
1校～2校	34	39.1
3校～5校	17	19.5
6校～10校	1	1.1
11校以上	2	2.3
無回答(不明を含む)	33	37.9

4. 学習課題(テーマ)

ー郷土学習(歴史学習を含む)ー

- ・郷土を知る(郷土の自然と歴史、郷土の産業の変遷と歴史、町のお祭り、本別空襲、戦争、町の歴史と刑務所、刑務所の歴史)、井越和吉と井越早稲、屯田兵、昔の遊び、ソーラン節
- ・大昔の郷土、郷土の遺跡、〇〇時代について、〇〇年前の郷土、地域(郷土)の歴史
- ・アイヌの暮らし、アイヌの暮らしと信仰、アイヌ語地名
- ・むかしの町並みと今の町並み、むかしの暮らしと今の暮らし、昔の遊び
- ・むかしの道具(石臼、ストーブ、稲づくり道具、農機具、漁具)を調べる
- ・〇〇地区の産業、産業の衰退と町の移り変わり、ダムに沈む〇〇地区
- ・ビートの栽培と砂糖のできるまで、お酒のできるまで
- ・町にある施設と町おこし

ー体験学習ー

- ・遺跡の発掘、土器の復元、縄文づくり、火おこし、竪穴住居での宿泊、鎧の着用の体験
- ・竹スキーづくり、ソバづくり、せんべい焼き体験、石炭ストーブ体験、農作業体験、木工、クラフト、バードコールづくり、縄文時代の暮らし
- ・サケの採卵実習、化石採取、森の体験教室

ー自然学習ー

- ・ぼくたちの学校に小鳥をよほう、学校のまわりの自然、わたしたちの町で見つかる化石調べ、サケの飼育とサーモン学習・サーモンウォッチング、身近な川について調べよう、〇〇川ではどんな魚が釣れるだろう、火山について、いのちについて、ブナ林観察、環境保護、斜里岳、知床自慢、地域(郷土)の自然

ーその他ー

- ・博物館のしごとと役割、一日博物館ボランティア

Ⅲ 教育普及担当職員の配置について

1. 児童生徒などへの教育・指導のための職員の配置

- ・学芸員を配置し対応している

第8表

館数 (%)

学芸員配置数	0名	30	33.3
	1～2	44	47.8
	3～5	15	30
	6～9	2	2
	10名以上	1	1.1

- ・学芸員はいないが他の正職員が対応している

第9表

館数 (%)

学芸員資格あるいは教職経験が	ある	2	—
	ない	9	—

- ・学芸員はいないが非常勤・嘱託職員・ボランティアが対応している

第10表

館数 (%)

学芸員資格あるいは教職の経験が	ある	7	—
	ない	6	—

<調査－2>

小中学校での「総合的な学習の時間」の取り組み状況についてのアンケート調査

調査者：北海道浅井学園大学 生涯学習システム学部

芸術メディア学科（学芸員課程）

調査期間：平成13年10月下旬～11月下旬

調査学校数：北海道内の小中学校（無作為抽出）

小学校 282校、中学校 180校 計 462校

回答数：小学校 110校、中学校 70校 計 180校

回答率：小学校39.0%、中学校38.9%、全体39.0%

（比率の基数は小学校が110校、中学校が70校）

I 博物館の利用について

1. 利用状況について

第11表	校数 (%)		* A		B	
	小学校	中学校	小学校	中学校	小学校	中学校
1)よく利用している	11(9.2)	2(2.9)	10(9.1)	2(2.9)	1(9.1)	0(0)
2)ときどき利用している	54(49.1)	16(22.9)	45(40.9)	15(21.4)	9(8.2)	1(1.4)
3)あまり利用していない	35(31.8)	29(41.4)	22(20)	25(35.7)	13(11.8)	4(5.7)
4)まったく利用していない	5(4.5)	18(25.7)	4(3.6)	12(10.9)	1(9.1)	6(8.6)
5)今後は利用したい	1(0.9)	5(7.1)	1(0.9)	2(2.9)	0(0)	3(4.3)
6)今後も利用しない	4(3.6)	0(0)	2(1.8)	0(0)	2(1.8)	0(0)

* A：行政区域内に博物館施設がある学校

小学校85校、中学校57校

B：行政区域内に充実した博物館施設がない学校

小学校25校、中学校13校

2. これまで利用している（今後利用したい）博物館施設（複数回答）

第12表	校数 (%)	小学校	中学校
1)郷土館など歴史系の博物館		92(83.6)	49(70)
2)美術館		14(12.7)	18(25.7)
3)青少年科学館など理工系博物館		66(60)	24(34.2)
4)自然史系博物館		29(26.4)	26(37.1)
5)動物園		27(24.5)	
6)植物園		9(8.2)	7(10)

3. 利用している（今後利用したい）博物館の所在場所

- 1) 地域内 小学校55校（50%） 中学校26校（37.1%）

利用する主な理由：近くて便利・徒歩で行ける、短時間で移動ができる、路線バスで行ける、交通費等の経費がかからない、近いので直ぐに教科と対応して見学できる、地域（地元）の資料が展示されている、地域（地元）の文化や歴史を学ぶことができる、全市的に地域学習に地元の博物館見学が位置づけられている、総合的な学習の時間の中に地元の博物館見学が位置づけられている、レファレンスにすぐ対応してくれる、博物館が図書館との複合施設

- 2) 地域外 小学校18校（16.4%） 中学校8校（11.4%）

利用する主な理由：地域内に博物館施設がない、地域内に学習目的を達成できる博物館施設がない、他地域にある施設のほうが学習に有効、社会見学・宿泊研修・修学旅行などの地域外で行っている

- 3) 何れも 小学校23校（20.9%） 中学校7校（10%）

- 4) 無回答 小学校14校（12.7%） 中学校29校（41.4%）

4. 博物館を利用する（今後利用する）目的は（複数回答）

第13表	校数（%）	小学校	中学校
1) 教科単元に沿った学習		75(72.8)	27(36.5)
2) 施設見学		41(39.8)	7(9.5)
3) 修学旅行		31(30.1)	9(12.2)
4) 総合的な学習の時間		54(52.4)	31(41.9)
5) その他		4(3.9)	4(5.4)

5. 利用に先だつての下調べや博物館職員（学芸員）との打ち合わせの実施状況

	校数（%）	小学校	中学校
1) 必ず行っている		15(14.6)	8(10.8)
2) 必要に応じて行っている		69(67.0)	33(44.6)
3) まったく行っていない		5(4.9)	5(6.6)

6. 博物館の利用にあたって児童生徒に行わせる予習や復習の状況

第14表	校数（%）	小学校	中学校
1) 必ず行わせている		23(23.3)	8(10.8)
2) 必要に応じて行わせている		68(66.0)	36(48.6)
3) まったく行かせていない		1(1.0)	3(4.1)

7. 博物館の利用にあたっての学習目的の達成状況

第15表	校数（%）	小学校	中学校
1) いつも十分に果たされている		1(1.0)	3(4.1)
2) おおむね果たされている		85(82.5)	31(41.9)
3) 時に果たされないときがある		9(8.7)	10(13.5)
4) いつも果たされていない		0(0)	2(2.7)

8. 学習目的が果たされない理由

第16表	校数（%）	小学校	中学校
1) 博物館の対応不足		10(9.7)	2(2.7)
2) 教師の準備不足		40(38.8)	18(24.3)
3) 生徒の意欲や理解の不足		24(23.3)	20(27.0)
4) その他		13(12.6)	6(5.8)

* その他：教師と博物館との十分な事前打合せと博物館職員に何を望むかを明確にしていること、1)2)3)のすべてが絡み合っている、学習内容と展示物のずれ、教師と児童との対話不足、博物館が充実していない、教師が充分に下見す時間がない

9. 博物館での学習指導の担い手は

第17表	校数 (%)	小学校	中学校
1) 学校教師		18(17.5)	7(9.5)
2) 学芸員など博物館職員		64(62.1)	37(50.0)
3) その他		15(14.6)	14(18.9)

* その他：ケースバイケース、教師と学芸員との連携、学校が主体で学芸員が指導、学校がつくるプログラムに沿って学芸員が指導、事前・事後は教師が館内では学芸員が、主体は児童生徒でそのニーズに応えるのが学芸員、児童生徒が自主的に

10. 博物館に提供を希望する資料（複数回答可）

第18表	校数 (%)	小学校	中学校
1) 児童生徒用のリーフレット		45(43.7)	32(43.2)
2) 児童生徒用のワークシート		27(26.2)	25(33.8)
3) 児童生徒用の展示解説書		47(45.6)	21(28.4)
4) 児童生徒用の学習のしおり		39(37.9)	15(20.3)
5) 教師用の指導の手引き		57(55.3)	19(25.7)
6) 一般用の展示解説書		6(5.8)	8(10.8)
7) その他		—	—

* その他：学習プログラムのヒント、教育課程に対応するよう作成された資料、ホームページなど情報検索できるシステム

II 特に「総合的な学習の時間」での博物館の利用について

1. 「総合的な学習の時間」における博物館・美術館の利用状況

第19表	校数 (%)			* A		B	
		小学校	中学校	小学校	中学校	小学校	中学校
1)よく利用している	6 (5.8)	7 (9.5)	5 (6.1)	5 (8.9)	1 (4.8)	2(11.1)	
2)ときどき利用している	56(54.4)	22(29.7)	44(53.7)	17(30.4)	12(57.1)	5(27.7)	
3)あまり利用していない	30(29.1)	16(21.6)	24(29.3)	14(25.0)	6(28.6)	2(11.1)	
4)まったく利用していない	11(10.7)	29(39.2)	9(11.0)	20(35.7)	2(9.5)	9(50.0)	

* A：行政区域内に博物館施設がある学校

小学校82校、中学校56校

B：行政区域内に充実した博物館施設がない学校

小学校21校、中学校18校

2. 「総合的な学習の時間」において、博物館以外で、これまでに利用していた施設

- ・小学校1学年 福祉施設、図書館、自然観察公園、動物園
- ・小学校2学年 図書館、郵便局、バスターミナル、公園、スーパーマーケット、アスレチック
- ・小学校3学年 役場、警察署、消防署、図書館や公民館など文化・生涯学習施設、福祉施設、児童館、水道施設、農村環境改善センター、農産物加工センター、コンブ種苗センター、営林署、商店、農家、各種工場、豆工房、たまねぎ畑、漁協、青果卸市場、歴史的建造物、自然観察公園、知事公館
- ・小学校4学年 役場、警察署、消防署、防災施設、下水道施設、地区集会所、盲学校、福祉施設、図書館や公民館など文化・生涯学習施設、銀行、農家、ショッピングセンター、各種工場、下水道終末処理場、ガスプラント、商店、デパート、買い物公園、自然観察公園、古紙回収業者、リサイクルセンター、ごみ処理場（焼却場）、JA、水産物栽培センター、ウニ種苗センター、漁協冷蔵庫、営林署、森林管理事務所、造林現場、木材加工施設、オホーツクタワー、チューリップ公園、歴史的建造物、炭鉱跡地
- ・小学校5学年 市役所・役場、市議会、裁判所、福祉施設、リハビリセンター、図書館や公民館など文化・生涯学習施設、農産物加工センター、水産物加工センター、テクノパーク、各種工場、トイレットペーパー工場、農業改良普及所、JR駅、ビール園、サッポロドーム、地下鉄、ごみ処理場、浄水場、排水機械所、漁業共同組合、神社、寺院、給食センター、水田・水田農家、TV・FM放送局、陶芸体験施設、自然体験施設、各種商店、炭鉱跡地、国際交流センター
- ・小学校6学年 市役所・役場、北海道庁、大学、図書館や公民館など文化・生涯学習施設、お祭り、歴史的建造物、商工会議所、国際交流センター、福祉施設、温泉施設、病院、リハビリセンター、旅館、ライスセンター、農産物加工センター、水産物加工センター、公

- 園、海浜センター、ネイチャーセンター、ウトナイ・サンクチュアリー、環境庁ビジターセンター、風力発電所、リサイクルセンター、JR駅、TV・FM放送局、ビール園、サッポロドーム、きたえーる、市内の公園施設、フラワーセンター、パッチュー教会、動物園、清里ダム、各種工場、炭鉱跡地
- ・小学校全学年 市役所・役場、文化・スポーツ施設、福祉施設、保育園、各種公園
 - ・中学校1学年 市役所・役場、各種職場（職場訪問）、障害者福祉施設、文化・スポーツ施設、福祉施設、保健施設、薬局、銭湯、エコミュージアムセンター、第3セクター企業、リサイクルセンター、道民の森、農園、盲・聾学校、養護学校、廃校跡地、新聞社
 - ・中学校2学年 市役所・役場、各種福祉施設、各種企業・工場、幼稚園、保育園、ゴミ処理場
 - ・中学校3学年 市役所・役場、各種福祉施設、各種商店、保育園、幼稚園、ゴミ処理場
 - ・中学校全学年 市役所・役場、地域内の集会所、各種施設（地域調査）、図書館や公民館など文化・生涯学習施設、遺跡、寺院、福祉施設、道民の森、北海道電力

3. 「総合的な学習の時間」における事前の下調べや施設職員との打ち合わせの実施状況

第20表	校数 (%)	小学校	中学校
1) 必ず行っている		41(39.8)	23(31.1)
2) 必要に応じて行っている		50(48.5)	28(37.8)
3) まったく行っていない		5(4.9)	4(5.4)
4) 回答無		7(6.8)	19(25.7)

4. 「総合的な学習の時間」で設定した課題（テーマ）

- ・小学校1学年 川にすむ魚調べ
 - ・小学校2学年 地域について知る、町の施設を知ろう、川にすむ魚調べ
 - ・小学校3学年 私たちの町を調べよう、探検わが町（歴史・文化・環境、地域と人）、博物館に入ってみよう、こん虫ワールド、生命の大切さ・不思議さを追求しよう、アイヌ文化を知ろう、障害のある人との交流、川、私たちの町のスクープを探せ、めざせ松前博士、湿原博士になろう、アイヌ文化（歌・踊りなど）にふれる、博物館を利用して昔調べ、農機具の移り変わり、人と自然、人と文化、人と人、地域の農業の移り変わり、地元にある食品会社、地元の農協、昔の人々の暮らし、生活の歴的な変化
 - ・小学校4学年 植物の成長、地域の緑に親しもう、より住みよい町づくりのために、私たちの町を調べよう、町の歴史をしらべよう、働く人からお話を聞こう（福祉・健康）、足元からのゴミ減量作戦、お年寄りとは仲良くなろう、公園と人とのかわり、リサイクルと私たちの生活、私たちの町の公共施設、私たちの町の良さって、めざせ松前はかせ、限りある命、アイヌの食文化を体験的に理解する、人と自然・人と文化・人と人、地域の農業の移り変わり
 - ・小学校5学年 地域をしらべよう、酪農をさぐる、守ろう地域の環境、やさしい町をつくろう、自給自足体験（環境）、産業と人とのかわり、資源を守ろう、ニンジンが変身、森林を学ぶ、縄文時代の生活、開拓のころの米づくり、アイヌ文化を体験的な学習をととして理解する、星の学習、人と自然・人と文化・人と人
 - ・小学校6学年 地域をしらべよう、わがまち再発見、地域の自然と観光、地域の人々の暮らし、私たちが地域のために役立てることは、私たちの町の歴史を探ろう、縄文文化を知ろう、釧路湿原、縄文時代の生活、開拓のころの米づくり、地域のプロから学ぶ、外国からの食文化、箸について、アイヌ文化を含めた地域文化への理解を深める、バリアフリーの施設調べ、人と自然・人と文化・人と人
 - ・小学校全学年（タテ割り、集団） 地域の自然・文化・環境を知ろう、昔の人の生活の様子をしらべよう、米づくりの歴史をしらべよう、野鳥を調べよう
 - ・中学校1学年 地域の自然・歴史・文化を調べるふさと学習、有珠山を学ぼう、貝塚
 - ・縄文文化を学ぼう、伝統文化を学ぼう
 - ・中学校2学年 地域の自然・歴史・文化を調べる、(古代の) 日本を知る、地域の環境問題、職業調べ・職場の仕事・職場体験、施設の管理の内容を知ろう
 - ・中学校3学年 人と自然のふれあい、地域の文化環境を調べる、有珠山を学ぼう、貝塚・縄文文化を学ぼう、日本の伝統文化を学ぼう
 - ・中学校全学年 地域の良さを知ろう、地域の自然・歴史・文化を調べる、自然・人・共生
- ### 5. 「総合的な学習の時間」を実施するにあたっての博物館に対する要望
- ー運営全般ー
- ・過去の歴史を学んだことが明日につながる博物館運営の工夫
 - ・博物館と学校（地方も含めて）との連携・交流の強化
 - ・児童生徒をマスとしてとらえずに、個としての対応が必要

- ・見学後の学習ができる場所（講堂など）の設置
- ・学習だけでなく施設見学及び職業体験の場としても利用したい
- ・利用申請の簡略化（通年にわたって児童生徒が利用・見学する場合があるので、個人あるいはグループでの入館や学習指導への便宜の供与）
- ・収蔵庫の見学
- ・通年開館
- ・入館料の無料化
- －教育・普及－
- ・学芸員に「総合的学習の時間」のねらいを知ってもらいたい
- ・児童生徒にもわかり易い展示解説（書）の作成と配布
- ・学習のしおりの作成と配布
- ・体験的な学習のための施設や設備の整備
- ・展示解説スタッフの配置
- ・画一的ではなく各学年の学習内容に対応した解説
- ・児童生徒の学習内容に合わせた専門分野が異なる複数の学芸員の配置
- ・児童生徒個々の学習課題への対応
- ・気軽に児童生徒が質問できる体制
- ・ゲストティーチャーとして学芸員を学校へ派遣
- －展示－
- ・児童生徒のための展示
- ・展示資料の充実
- ・単に陳列するだけでなく資料個々に解説文を付す
- －情報提供－
- ・博物館情報の適切・迅速な提供
- ・博物館で学ぶことのできる事柄を学校側にはっきりと示してほしい
- ・博物館で何が学べるか、またその方法を示したマニュアルの提供
- ・児童生徒の学習に必要な資料が何処に展示されているかがわかり易く、すぐに探し出せるようなガイドシステムの整備
- ・地域の歴史だけでなく、自然など幅広い情報の提供
- －学芸員－
- ・学芸員の配置
- ・学芸員による学校への積極的な支援

Ⅳ 「総合的な学習の時間」の本格実施にあたっての課題－むすびにかえて－

以下に、博物館施設が各学校に対して行う学習支援の内容や方法、さらには博物館施設と各学校との関係について、アンケート調査を基にその現状と今後の課題を箇条的に列挙することとむすびにかえたい。

1. 現状の把握

1) 博物館における現状

- ・学校教育との連携を強く望んでいる
- ・学校教育に対しは、常日頃からよく協力しているとの認識をもっているし、また要望があれば積極的に協力したいと考えている
- ・博物館での児童生徒の学習には学芸員ばかりでなく、学芸員が配置されていない館でも事務職員や非常勤・嘱託職員が対応している
- ・学校教育での「総合的な学習の時間」において何が協力できるか、またどのような方法で協力できるかといった事柄についても強い関心をもっている
- ・しかし、「総合的な学習の時間」にかぎらず、児童生徒が博物館で学習するにあたっては、

学習指導の担い手はあくまでも学校（教師）側であり、博物館はあくまでも学校（教師）に対し手助けするあるいは補助する立場であるとの認識をもっている

- ・各学校が提供を望んでいる児童生徒のための「展示解説書」や教師のための「指導の手引き」など学校での教材研究等に必要な参考資料を作成・配布している館は限られている

2) 各学校における現状

- ・施設見学や社会見学などの実施にあたっては、博物館は数ある利用対象施設のうちの一つにしか過ぎない。したがって、今のところ積極的には博物館は活用されているとはいえない。しかし、今後は「総合的な学習の時間」の中で積極的に活用して行きたいとの考えがうかがえる
- ・「総合的な学習の時間」の展開にあたっては、特に地域学習・ふるさと学習、自然保護、体験学習などを課題として取り上げ、歴史系・自然史系あるいは理工系の博物館をより一層活用したいと考えている
- ・見学施設での実効ある学習のために、教材研究や事前・事後の学習に対する教師の努力に加えて、博物館側（学芸員やその他の職員）の適切なまたより積極的な対応が必要であると感じている
- ・博物館で何が学習できるかまた効果的な学習のためにどうしたらよいかを知りたいと考えている、このことに対する博物館側のアドバイスを望んでいる
- ・「総合的な学習の時間」にかぎらず、児童生徒が博物館内で学習するにあたっては、博物館（学芸員）側が指導者の立場に立ってより積極的に役割を果たしてもらいたいと強く希望している
- ・博物館に対し、学習資料として児童生徒用「リーフレット」に加えて「展示解説書」及び教師用の「指導の手引き」等の配布・提供を希望している

2. 今後の課題

1) 博物館側の課題

- ・学校側（教師）に博物館の機能や博物館がもつ学習資源の内容を理解してもらうために、講座や研修会等対話の機会を多くもつこと
- ・小中学校の教育課程を知り、その上で各教科の単元に沿って児童生徒が博物館で何が学習できるかを整理し、学校側に具体的に知らせること
- ・学校側と共働して、受け入れるためのメニューやプログラムなど教育計画を策定すること
- ・児童生徒に対する博物館授業の実施にあたっては、学校（教師）側と緊密に連携した上で、学校側が希望するならば、博物館（学芸員やその他職員）側が博物館授業の主導者としての役割を積極的に果たすこと
- ・博物館施設に対して学校や児童生徒がより関心を深め、またその関心を長くつなぎ止めるために、学校や児童生徒が博物館を利用するだけでなく、博物館づくりや博物館の運営に参画できるシステムをつくること、例えば「総合的な学習の時間」の成果を博物館の展示

活動や普及活動などに活用すること

- ・多種多様な学校の要望に応えるために、他館の学芸員や域内の民間研究者などにサポートしてもらうこと
- ・そのためには、博物館が主体となって学校教育支援のための人材バンクや近隣博物館による支援ネットワークをつくること、特に異種博物館との協力やネットワークづくりに努めること
- ・学校教育への支援ネットワークを構築する際は、例えば北海道博物館協会の地区連絡協議会が主導的な役割を果たす必要があるのではないか

2) 学校側の課題

- ・教師自身が博物館に対して関心をもって、博物館を楽しむゆとりをもつこと、さらには博物館がもつ機能と学習資源を熟知すること
- ・博物館において児童生徒に何を、何のために、どのように学習させたいのかなどを整理して、そのことを博物館側に明確に伝えること
- ・博物館での教育計画を博物館側と共働して策定すること
- ・「総合的な学習の時間」にかぎらず、博物館での学習にあたって、博物館授業を博物館（学芸員）側に主導的に果たしてもらいたいと考えるならば、そのことを明確に、そして強く博物館側に伝えること
- ・「総合的な学習の時間」における学習の成果を、博物館の展示施設などを活用して、地域の人々に発表すること
- ・博物館側をサポートする意味で、博物館が行っている学校教育への支援状況を教育関係者（教育委員会等）や児童生徒の保護者へ何らかの方法で知らせ、博物館を孤立させないこと

注

- 1) 平成13年度北海道博物館大会基調講演（広瀬隆人、宇都宮大学助教授）より
 - 2) 神奈川県立生命の星・地球博物館、群馬県立自然史博物館など
 - 3) 学芸員や解説員は来館者に展示解説などをおして知識や情報を提供するだけでなく、来館者からも知識や生活体験など様々な情報を得ることができる
 - 4) 北海道開拓記念館、旭川市博物館、斜里町立知床博物館、美幌町博物館、知内町郷土館、北海道立埋蔵文化財センターなどが、また、博物館と図書館との複合施設としては鶴居村ふるさと情報館、らぽろ21浦幌町立博物館、厚沢部町郷土資料館などがある
 - 5) 集計結果の全体は未公表
 - 6) 北海道開拓記念館、北海道開拓の村、斜里町立知床博物館、美幌町博物館、上湧別町ふるさと館JRY、知内町郷土館など
- * 今後の課題をまとめるにあたっては、フォーラム「総合学習の時間がはじまる」－学校と博物館との対話と連携－『社会教育』2002年5月号を一部参考にした